

分野名		生体機能形態医学分野								
科目名		感覚機能病態学								
英文科目名		Patho-physiology of sensory organs								
担当教員	研究指導教員	三輪高喜教授								
	科目担当教員	志賀英明准教授								
代表的な研究課題		嗅覚、味覚、聴覚、平衡覚に関する研究								
		鼻副鼻腔疾患に関する研究								
		頭頸部がんに関する研究								
学修目標	一般目標	豊かで、質の高い生活を営むために視覚、聴覚をはじめさまざまな感覚の重要性、また咀嚼、嚥下、発声のような人間らしい生活を営むための機能の重要性があらためて認識されてきている。本科目はさまざまな感覚器の形態、機能を基本に、各種疾患の病態、診断、治療について専門的な分野での高度な知識、技法および指導力を持つことを目標とする。								
	行動目標 (DPとの関連)	嗅覚、味覚系の基本生理、病態を学ぶことができる。						(DP1・2・3)		
		頭頸部癌の病態、治療、音声などについて学ぶことができる。						(DP2・4)		
		機能温存、回復を目的とした感覚器手術の重要性を学ぶことができる。						(DP2・4)		
学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。									
	DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。									
	DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。									
	DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。									
教科書		教科書は定めず、事前に資料を配付する								
準備学習	内容	事前配布する資料、論文に目を通し、問題点を抽出しておくこと。								
	時間	30分/1回の授業あたり								
課題に対するフィードバック		レポート内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。								
評価方法等	評価方法	出席とレポートで総合評価								
	成績評価基準	評価配分：出席 80%、レポート 20%								
		教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと								
科目番号		講義	5011401	演習	5011402	実験実習	5011403	特別研究	50501016	
単位	4		4		4		6 (2-4年次で)			
	30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H		
開講時期		通年		通年		通年		通年		
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次		
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-		
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修		
	副科目とする場合	選択		-		-		-		
時間割	区分	講義		演習		実験実習		特別研究		
	昼間	前期15週	水曜 3限目		水・木曜 4限目		水・木曜 5限目		土曜 2限目	
		後期15週	水曜 6限目		木・金曜 6限目		木・金曜 7限目		土曜 3限目	
	夜間	前期15週	水曜 6限目		木・金曜 6限目		木・金曜 7限目		土曜 3限目	
備考	授業時間の詳細は、21頁[医学研究科における授業時間]を参照のこと。 上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。									
授業場所		臨床研究棟4階 耳鼻咽喉科学医局		臨床研究棟4階 耳鼻咽喉科学医局		臨床研究棟4階 耳鼻咽喉科学研究室		臨床研究棟4階 耳鼻咽喉科学 他		

担当教員	講義	演習	実験実習	特別研究
	三輪高喜教授	三輪高喜教授 志賀英明准教授	三輪高喜教授 志賀英明准教授	三輪高喜教授
授業内容	<p>今日の情報化社会および高齢化社会において、豊かで、質の高い生活を営むために視覚、聴覚をはじめさまざまな感覚の重要性、また咀嚼、嚥下、発声のような人間らしい生活を営むための機能の重要性があらためて認識されてきている。本科目は、さまざまな感覚器の形態、機能を基本に、各種疾患の病態、診断、治療について講義を行い、さらに専門的な分野での高度な知識、技法および指導力を持つことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嗅覚、味覚の受容と伝導について専門的に講義する。 ・鼻副鼻腔の解剖と生理について解説し、代表的な疾患であるアレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の病態、診断、治療について講義する。 ・頭頸部悪性腫瘍の中で、特に喉頭癌の病態、診断、治療の基本と喉頭発声機構について解説し、喉頭摘出後の代用音声獲得に必要な知識と技術について講義する。 ・機能温存、回復を目的とした感覚器手術の重要性を認識させ、特に副損傷防止のために導入された最新のナビゲーションシステムの理論、機構、臨床応用についてコンピュータ外科の立場から講義する。 	<p>嗅覚、味覚受容伝達機構、聴覚、頭頸部悪性腫瘍（喉頭癌）、喉頭発声機構、感覚器手術などに関する最新の学術論文を提供し、セミナー形式で発表させ、理解力ならびに自己発現能力を養成するとともに、各領域の重要な点、また問題点を列挙させ、それらを課題とした研究計画を立案させる。さらに将来の耳鼻咽喉科教育に必要な指導力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嗅覚研究の基本的な手技、とくに嗅覚障害モデル動物の作製、嗅覚機能行動解析法、嗅細胞からの細胞内電位の測定など実験手技を習得する。 ・嗅覚検査、味覚検査を理解し、実施できるようにする。 ・鼻副鼻腔の解剖を理解し、その手術手技を習得し、術後の機能解析法を習得する。 ・喉頭癌患者の診療を通じて、特に手術手技、喉頭摘出後の音声獲得法と音声分析、音声リハビリテーションを習得する。 ・感覚器官の臨床解剖、手術手技ならびにナビゲーションシステムの工学的機構、使用法を習得する。 	<p>感覚障害の発生、病態、治療に関する基礎、臨床的研究</p>
授業計画（インターネットに掲載）	講義	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011401.pdf		
	演習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011402.pdf		
	実験実習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011403.pdf		
資格取得などのキャリアパス	特になし			
研究指導教員の実務経験	医師			
履修上の注意事項	①質問の受付は、随時行う。			
	②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。			
	③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。			
	④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。			
	⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。			
オフィスアワー	<p>三輪高喜教授（臨床研究棟4階 耳鼻咽喉科学教授室） 金曜日 16:00～17:00（事前にメールでの照会必須） e-mail miwatata[at]kanazawa-med.ac.jp [at]→@</p>			